

【市政情報室・ホームページ用】

平成19年千葉市教育委員会会議
第1回臨時会会議録

千葉市教育委員会

平成19年千葉市教育委員会会議第1回臨時会會議録

日時 平成19年8月6日(月)

午後2時00分開会

午後3時25分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 竹蓋 幸生
 委 員 奥山 福子
 委 員 岩沼 静枝
 委 員 津田 英彦
 教 育 長 飯森 幸弘

出席職員 教 育 次 長 海宝 和雄 学事課調整主幹 白鳥 洋二
 教育総務部長 大野 湊 総務課主幹 伊藤 太一
 学校教育部長 岩切 裕 指導課主幹 小寺 道明
 生涯学習部長 宮野 光正 稲毛高等学校教頭 青木 正寿
 千葉高等学校長 下重 恒夫 指導課長補佐 澁谷 亨
 稲毛高等学校長 柴寄 光夫 指導課指導主事 池田 亘宏
 教育総務部参事(総務課長事務取扱) 武田 昇 指導課指導主事 塙 久美子
 指導課長 小池 公夫 学事課指導主事 鈴木 誠一

書 記 総務課長補佐 大崎 賢一 総務課主任主事 渡邊 賢一
 総務課総務係長 藤代 真史 総務課主事 犬飼 綾
 総務課副主査 小池 正彰 総務課主事 河瀬 伸也
 総務課主任主事 清田 信之

- 1 開会
竹蓋委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
過半数委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
竹蓋委員長より岩沼委員を指名
- 4 会期の決定
平成19年8月6日(1日間)ということで出席委員全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を出席委員全委員異議なく決定
- 6 議事の概要
 - (1) 非公開事項の決定
議案第40号から議案第42号までを非公開審議とする旨決定
 - (2) 議決事項
議案第40号 平成20年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について
千葉高等学校長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
議案第41号 平成20年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について
稲毛高等学校長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
議案第42号 平成20年度使用学校教育法第107条の規定による教科用図書の採択について
指導課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。
 - (3) 発言の要旨
議案第40号 平成20年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について
委員長 千葉高等学校長、説明をお願いします。
千葉高等学校長 議案第40号「平成20年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について」説明します。まず、教科用図書の選定に当たっての基本的な考え方ですが、本校の生徒の実態、本校の教育方針や努力目標等に沿ったものであることを基本とし、「生徒一人ひとりが人間としての在り方、生き方について自覚を深めるのに有効なものであること」、「生徒の学力、興味、関心等の実態

等に十分対応したものであること」、「生徒一人ひとりの適正を一層伸張り、その自己教育力の育成に資するものであること」、これらの視点を踏まえ、教材として使用するにふさわしいものを選定しました。また、当然のことながら学習指導要領の目指すところである、「豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成することを自ら学び、自ら考える力を育成すること」、「基礎、基本の定着を図り、個性を生かす教育を進めること」、「特色ある学校づくりを進めること」、以上のことも基本方針として考慮し、検討しました。次に、これまでの経過、教科書の変更の状況等についてご説明します。経過についてですが、5月11日に開催された「平成19年度高等学校教科書選定連絡協議会」において、県教育委員会から教科書選定についての全体説明がありました。次に、県教育委員会から「6月21日付け教指468号」で、教科書需要数、選定理由書、選定教科書一覧表の提出が指示されました。その後、市教育委員会から「7月4日付け10教指第359号」において、6月27日開催の教育委員会会議において議決された採択方針に基づいて選定作業を進めること及び選定理由書の提出が指示されました。そして、7月10日に校内において、校長、教頭、教務主任、教務教科書係、各教科の教科書担当で教科書選定委員会を開き、教科書の選定作業を行いました。次に、教科書が変更されたものについては、資料に記載したとおりですが、たとえば普通科1学年では、9教科16冊のうち、国語総合と保健体育、音楽、美術、オーラルコミュニケーションについて、変更の選定を行いました。以下同様にご覧いただきたいと思います。変更の理由ですが、大部分は、昨年変更の選定を行った教科書について、その学年が上がり、継続性を図るために同一教科書会社のものを選定したことです。その他の理由としては、たとえば1学年では国語総合、保健体育を変更しましたが、これは改めて内容の構成や、本校の生徒の実態を考えた結果、より指導に適しているということで変更したものです。次に単位制導入に伴う変更部分ですが、これは教科書ではなく、単位制導入の関係で、教育課程上、来年度の2学年の科目について、単位数を変更したものです。国語の古典が週2時間だったものが4時間になり、2時間増になります。数学が週3時間だったものが4時間になり、1時間増になります。外国語はライティングが加わって2時間増になり、このほかに選択科目等が加

わります。単位制の2年目は、45分の7時限授業ということで、コマ数が増えている分だけ、単位数の増加等があります。

委員長 質問等を含め、何かありますか。

委員 今年は単位制導入の過渡期なので、継続性のために変更したものがあということですが、来年か再来年になると同一会社の教科書に統一されていくのでしょうか。

千葉高等学校長 今後検討しますが、使用してみしてから、メリットやデメリットを見極めていきますので、今の段階で変更するか否かは判断できません。

委員 資料に記載してある「校長が総合的に判断し」というのは非常に重みのある言葉だと思いますが、「総合的に」とは具体的に何を指すのですか。

千葉高等学校長 学校の教育方針や生徒の実態、各教科の選定委員会が出した選定理由書を含めて総合的に判断し、特に大きな問題がなければ、選定委員会で選定したものに決定しています。

委員 生徒の実態などというのは、専門家ですら簡単にはわからないことだと思いますが、校長はそれを把握しているのですか。それと、生徒の実態を踏まえて内容が難しすぎる、易しすぎるということもあると思いますが、これも難しい問題です。易しい教科書で授業をすれば生徒は喜ぶかもしれませんが、力をつかないと思いますし、普通に授業をするよりは、先生が生徒を引っ張っていくのが大変なぐらい難しい教科書で授業をして、はじめて本当の力がつくということもあります。そのようなことを考えると、「総合的」とはどこまで考えているのでしょうか。

千葉高等学校長 数学や英語では相当高度な教科書を使用していると認識しています。それで生徒がさまざまな進路に対応できるようにと願って授業をしており、易しい教科書で済ませようという考えはありません。

委員 校長が替わるたびに、少しずつ選定のニュアンスは変わっていくのでしょうか。

千葉高等学校長 1、2年度という短期的な学校の教育目標、努力目標を掲げており、これによってどのように選定するかが変わりますが、大きく変わるわけではありません。

委員 校長の裁量や総合的な判断で、選定する教科書も異なると思いますが、そこまでは考えなくてよいのですか。

委員 現実に、校長が指摘して各教科の選定委員会が選んだ教科書

と違うものが選ばれたということはあるのですか。

千葉高等学校長 本校ではありません。

委員 数学の教科書は、1学年では数学・Aともに数研出版、2学年でも数学・Bともに数研出版、3学年では東京書籍の教科書を利用しているようですが、これは1学年のときに使った教科書が、同一会社のものでそのまま上がっていくということでしょうか。

千葉高等学校長 そうです。

委員 しかし、数学の教科書については、会社は変わっているけれども内容がほとんど同じで、たとえば各章の導入部分がきちんと書かれているという点は、数学・A、・B、・Cと違う会社でも同じようです。その点を重視しているのかもしれないかもしれませんが、簡単に教科書を作っているのではないかとも思ってしまいます。同じ会社が同じことを書いているならわかりますが、会社が違って同じようです。私もすべての分野について細かい点までわかっているわけではありませんが、一般の人が見たときに、どこに着目し、どのような検討を行って選定したのかがわかるように書いていただきたいと思います。

議案第41号 平成20年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について

委員長 稲毛高等学校長、説明をお願いします。

稲毛高等学校長 議案第41号「平成20年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について」説明します。まず、教科用図書選定に当たったの基本的な考え方ですが、その内容が本校の教育方針や目標に沿ったものであることを基本とし、「生徒の学力に適應する内容や質であること」、「基礎学力の定着及び学習意欲の高揚が図れること」、「生徒一人ひとりの能力の伸張開発が図れること」、これらを選定の観点としました。さらに、全校で取り組んでおります、英語教育、国際理解教育の推進から、「諸外国の文化や歴史に興味関心を持ち、その理解を図れること」、「英語を含むコミュニケーション能力の育成を図れること」、「わが国の文化や歴史についてしっかりとした教養を持つことができるようにすること」、などについても選定の観点としました。次に、教科書選定の経過についてご説明します。平成20年度使用教科書選定の流れは、千葉高等学校と同様ですが、選定委員会の開催日が異なり、本校では7月11日に実施しました。次に、教科書が変更された

ものについては、資料に記載したとおりですが、1学年の国語総合、美術及び2学年の古典講読については新しい教科書に変更しました。2学年、3学年で変更した科目は、昨年度に教科書を変更し、その後学年が上がり、同じ会社の教科書を使用することによる変更です。なお、国語総合と古典講読については、中学生の段階ではあまり聞いたことのない作品等が多く掲載されており、内容が難しすぎたのではないかという反省がありました。そこで、なじみのある作品や、一般的によく知られている箇所が掲載されている、もう少し易しい教科書に変更しました。先ほど、「校長が総合的に判断」ということについてご指摘がありましたが、校長としては詳細な点までは判断できませんので、対外的に問題になるような点をチェックし、特に問題がなければ、各教科の選定委員会で決まったことについて、それぞれ説明を聞いた上で、その意見を尊重して決定するという形で、総合的な判断を行っております。なお、本校の独自設定科目である国際教養科の外国文芸、地域研究、専門科目である、コンピュータ、LL演習、英語表現、時事英語、ドイツ語、フランス語、中国語などで使用する準教科書については、教育委員会への届出等、必要な手続を経た上で使用することとしています。

委員長 質問等を含め、何かありますか。

委員 英語の選択者が多いと、たとえば数学などを履修する生徒が少ないのではないかと思います。いかがでしょうか。

稲毛高等学校長 稲毛高等学校は、英語に力を入れているということで文系の高校というイメージが強いのですが、3学年において毎年2、3クラス、理系のクラスもあります。理系のクラスの生徒は数学を履修しますが、文系の生徒は履修しませんので、人数としては少ないと思います。

委員 割合としてはどれくらいなのでしょう。

稲毛高等学校長 理系の2クラスは全員必修ですので、25%程度です。

委員 文系でも数学を修得しておく、大学受験などで有利ということもありますよね。

稲毛高等学校長 千葉県内で、文系の生徒にも数学を履修させる高等学校もありますが、本校では、文系の生徒はそこまでは余裕がないというのが現状です。しかし、文系の生徒もぜひ数学や理科が得意になってほしいと考えているところで、附属中学校の生徒は中学、高校と6年間ありますので、ぜひ理系と文系のバランスがとれた生

徒を育てていきたいと思ひます。

委員 ということを考えて、生徒たちを育ててあげてほしいと思ひます。

委員 国語総合と古典講読について、難しかったから易しいものにしたという話がありました。これは当然といえば当然なのですが、英語の教科書の選定理由を見ていると、「発話を生徒に求めやすい」、「活用しやすい」、「指導がしやすい」などとあり、教員が自分で使いやすい教科書を選んでいるのではないかという印象を受けます。それと、校長の総合的判断が外部的に問題がないかということのみでは、私は問題だと思ひます。今、稲毛高等学校だけでなく、英語の世界では一番流行っていると言ってもいいくらい、本屋に「シャドーイング」の本がたくさん並んでいます。リスニングのテストが導入されたためだと思ひます。私は、「シャドーイング」とは、教員にとっては非常に指導が楽で、生徒にとっては非常に苦しいものと考えており、その学習効果には疑問を持っています。教員は月給をもらい、生徒はお金を払っているのに、その生徒に苦勞をさせて、お金をもらっている教員が楽をしてはいけないと思ひます。これは稲毛高等学校の話ではなくて、一般的にそういう傾向があるということですが、この資料のように、「～しやすい」というように書かれてしまうと、稲毛高等学校の教員も楽をしたいのではないかと思われてしまいます。だから、生徒のためにわれわれはこれだけ汗を流しているというのが見えてくるようにしていただきたいと思ひます。

稲毛高等学校長 教員が各教科の選定委員会で話し合っているため、それを信託しています。教員間の議論において、自分たちが楽をするという発想があるのではないかというご指摘ですが、校長として本校の職員、とりわけ英語の教員を見ていると、そのような印象は受けません。ただ、表現の仕方として、そのように捉えられてしまうというご指摘もありましたので、その点は来年度検討したいと思ひます。校長としては、生徒たちが自分で考えて、自分の言葉でまず日本語できちんと表現した上で、英語ができる生徒を育ててほしいと、常々教員に言っているところです。これにしたがって教員が生徒を指導していると確信しています。

委員 私もそのとおりだと思ひます。

議案第42号 平成20年度使用学校教育法第107条の規定による教科用図書
の採択について

委員 長 指導課長、説明をお願いします。

指導課長 議案第42号「平成20年度使用学校教育法第107条の規定による教科用図書の採択について」説明します。本議案は、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により、議決を求めものです。選定の経過についてですが、6月27日の教育委員会会議で議決された「平成20年度使用義務教育諸学校用教科用図書の採択方針」に基づき、6月下旬から7月末までの間に、千葉市教科用図書選定委員会で調査研究を行い、図書を選定しました。前回の教育委員会会議でもご説明したとおり、いわゆる107条図書は、特別支援学校及び特別支援学級で使用する一般図書で、毎年度採択していただいているものです。本年度、県教育委員会から示された107条図書は、新たに選定された7冊の図書を含めて、全部で108冊あります。採択を希望する図書については、専門調査員による「内容」、「組織・配列」、「表現」、「造本」の4点について検討しました。本市で重視した観点は次のとおりです。「内容」について、「児童生徒の障害の状態や発達の状況への配慮があり、興味・関心や動機付けなど学習を促すための工夫がされているか」、「児童生徒の日常生活と関連する内容から、適切に取り上げられているか」、「教材の分量が適切であるか」、「児童生徒を指導する上で細かい配慮と工夫がなされ、様々な学習課題に発展的に活用していくことができるか」、以上4点。「組織・配列」について、「児童生徒の発達段階への配慮がされ、無理がないように教材が配列されているか」、「基礎的・基本的事項がおさえられており、学習指導に活用しやすいように工夫されているか」、以上2点。「表現」について、「用字や用語が適切であり、表現が平易で理解しやすいか」、「図表・写真・絵などが学習内容に適合しているか」、「色彩が鮮明で、わかりやすい配色であるか」、以上3点。「造本」について、「印刷が鮮明で、紙質がよく、製本が丈夫であるか」、「表紙・装丁などが親しみやすいように工夫がされているか」、「持ち運びやページめくりなど、大きさや扱いやすさに配慮されているか」、以上3点です。本市では昨年度、国語で15冊、算数・数学で13冊、生活で12冊、職業・家庭で11冊、外国語で4冊、合計55冊が採択されました。本年度は、3名の専門調査員による調査研究をもとに選定委員会で検討し、国語で17冊、算数・数学で14冊、生活で13冊、職業・家庭で10冊、外国語で5冊、合計59冊を選定しています。

国語では、県教育委員会から30冊が示されましたが、そのうち17冊を選定しました。昨年度から継続して選定した図書は15冊です。これは、指導の継続性や児童生徒に親しまれている図書が多いためです。新規に選定した図書は県教育委員会で選定された2冊です。1冊は「ジュラ出版局」『かいて けして またかける あいうえお』です。この本は、見やすくきれいな色彩で、文字の入門期の学習に適しており、絵と文のバランスがよく情報量が適切になっています。また、書いたり消したりして繰り返しの学習ができるようになっている図書であるため選定しました。他の1冊は、「東洋館出版社」『くらしに役立つ 国語』です。この本は、中学校の軽度知的障害の生徒の発達段階に配慮されており、自立した社会生活を目指すために必要な国語の内容が取り上げられています。また、段階的に身につけられるように系統的に組織されている図書であるため選定しました。算数・数学では、県教育委員会から26冊が示されましたが、そのうち14冊を選定しました。昨年度から継続して選定した図書は13冊です。これは、指導の継続性や児童生徒に親しまれている図書が多いためです。新規に選定した図書は、県教育委員会で選定された「東洋館出版社」『くらしに役立つ 数学』です。この本は、中学校の軽度知的障害の生徒の発達段階に配慮され、基礎編と生活編に分かれており、毎日の生活場面で使う数学についての知識や技能が取得できるようになっている図書であるため選定しました。県教育委員会で新規に選定された「ジュラ出版局」『ぴんきいしろっぷちゃんのらくがきえほん 1・2・3』は選定しませんでした。理由は、数の入門期の本としては1頁の情報量が多すぎるためです。生活では、県教育委員会から27冊が示されましたが、そのうち13冊を選定しました。昨年度から継続して選定した12冊に加え、県教育委員会で新規に選定された「国土社」『かわりえ・えほん はみがき だいすき』を新たに選定しました。この本は、生活の内容に沿って構成されており、簡単な仕掛けもあり興味を引きやすくなっています。また、絵が鮮明でわかりやすい図書であるため選定しました。職業・家庭では、県教育委員会から18冊示されましたが、そのうち10冊選定しました。昨年度から継続して選定した9冊に加え、県教育委員会で新規に選定された「金の星社」『NHK・ひとりのできるもん！手作り大好き - 手芸 - 』を新たに選定しました。この本は、生徒の興味関心を促す

工夫がされており、解説も分かりやすくなっています。また、手指の操作性を効果的に高められるようになっている図書であるため選定しました。逆に、昨年度選定されていた「さ・え・ら書房『母と子の手づくり教室 毛糸と布のたのしい手づくり教室』、「さ・え・ら書房」『母と子の手づくり教室母と子のたのしい草木ぞめ1』は選定しませんでした。これは、発行年が昭和57年、昭和61年と古いこと、今年度新たに選定した『NHK・ひとりできるもん！ 手作り大好き - 手芸 - 』と内容に重なる部分があるためです。外国語は、県教育委員会から7冊示されましたが、そのうち5冊選定しました。昨年度から継続して選定した4冊に加え、昨年度も県教育委員会で選定されていた「学習研究社」『新訂版 学研の英語ずかん2 おもしろかいわ2 場面別表現集』を選定しました。この本は、今まで継続して選定していた「おもしろかいわ1」のシリーズで、発展的に学習できるようになっています。また、基礎的・基本的な英会話が場面ごとにまとめられ、活用しやすいように工夫されている図書であるため選定しました。なお、県教育委員会で新規に選定された「ジュラ出版局」『かいて けして またかける ABC』は選定しませんでした。理由は、幼児向けの内容・表現を中心に構成されており、中学生が使用するものとしては活用しにくいからです。以上、合計59冊を選定しました。

- 委員 質問等を含め、何かありますか。
- 委員 学校教育法第107条の図書については、子どもの発達障害の程度によってだいぶ異なるので一概に言えないのですが、「千葉市では選定していないけれども、ぜひこういう教科書を使ってほしい」という声や、「使ってみたけれどもどうしても悪かったので、この教科書はやめたほうがいいのではないか」などという声はあったのでしょうか。
- 指導課長 そのような意見はなかったようですが、専門調査員がそれぞれの声を聴いており、それらが反映されています。
- 委員 結果として県教育委員会が選定したもの以外にはなかったということですね。
- 指導課長 そうです。
- 委員 こちらの資料だけ定価が入っているのはなぜですか。
- 指導課長 これは一般図書として各書店で売られているためです。また、県教育委員会からの指導で、あまり高価な図書は避けるようにと

ということで、県教育委員会の資料においても定価が示されています。これに従い、本市でも定価を入れています。

委員 「造本について」ということで説明がありましたが、印刷が鮮明で紙質が良く、製本が丈夫であるとなると、定価は高くなってしまいます。逆に安くしようとすると、質が悪くなってしまいますので、そのような点で矛盾するところもあるのではないのでしょうか。あと、英語の学習研究社の新しく選定された図書で、英語にカナがふってあるのですが、これは特別な事情のある生徒たちに教えるために、どうしても必要であるという説明があったのでしょうか。私の考えとしては、英語にカナをふるというのは賛成できません。

指導課長 表現について、「英単語にはカタカナで発音が示され、漢字には読み仮名がふられていて、わかりやすい」という報告がありますので、この事情を考慮したものです。

委員 先ほども言ったのですが、わかりやすいということと、教育効果が上がるということは必ずしも一致するものではありません。私はこういう生徒を指導したことがないので、少々はずれたことを言っているのかもしれませんが、一般的に考えたら、英語にカナをふってしまったら、もう正しい英語は学べなくなってしまうと思います。こういう生徒たちには絶対に必要な理由があるのであれば何も申しあげられませんが、普通に外国語を勉強するためには、カナを通してしまったらスペルにも目がいかず、音にも耳がいかず、もう学習できなくなってしまうと思います。

指導課指導主事 特別な支援を要する子どもたちのことについて、一つご説明したいと思います。耳から聞いて学ぶ必要性についてはよくわかりました。しかし、こういう子どもたちにとっては耳から入ることが苦手な場合が多く、視覚により、見るということからのほうが入りやすいという場合が多いです。調査員が「発音にカタカナを」というのはそのような面があるのだと思います。

委員 今の説明はよくわかります。私はあまり事情がわからないので受け入れざるを得ないことですが、言葉の正確な発音というのは、どのような教え方をしても、耳を通さない限りできないことだと思います。そう考えるとカナをふってしまうことは耳を通さないということで、本来はよくないことですよね。ただ、生徒の状況を考えた場合に、私の意見がどこまで強く言えるのかはわかりません。特別支援学校は聾学校とは限らないと思いますが、そ

れでも耳から学ぶことは苦手なのですか。

指導課長 ここで採択しているのは千葉市の特別支援学校、特別支援学級で用いる教科書ですが、生徒たちが聾というわけではありません。

委員 カナをふった英語の教科書のほうが、生徒にもわかりやすく、活用しやすいということですね。今後大人になってからはそれが活用できるのでしょうか。「こういうことは英語で言う」ということを覚えているのでしょうか。

指導課指導主事 教科書には、さまざまな場面における英語、朝のあいさつなどが書いてありますが、教科書で学んだことを、たとえば「学校の中で先生に会ったときにはこんなあいさつを英語でやってみる」という形で、日常化していくことが大事だと思いますので、そのように学習しているところです。

委員 特別支援学校や特別支援学級の生徒には、英語の教員免許を持っている人が英語を教えているということではないのですか。他の養護教諭の免許を持っている人が英語を教えるのですか。

指導課長 たとえば特別支援学級における英語の授業では、1人か2人の教員で教えており、それが必ずしも中学校の英語の教員免許を持っているというわけではありませんが、各学校で工夫して、たとえば英語の時間だけ英語の教員が行って指導するなど、同じ中学校内で協力し合って指導しています。

7 その他

(1) 市立高等学校における教科書の選定について委員より質問があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

委員 市立高等学校の教科用図書を選定については、学校のさまざまな特徴を踏まえて、各校の裁量で決めているということは先ほどの説明で理解しているところですが、専門教育に関するものは別として、一般教養に関するものは、2校しかない市立高等学校の間で選定に関して連携はあるのでしょうか。また、両校で共通の教科書を使用しているものはどれくらいあるのか、あえて変えているのか。また、異なるものについては明確な理由があるのか。教えていただけますでしょうか。

千葉高等学校長 教科書の選定については、特段両校で相談はしていません。各学校の目標や進路などを踏まえて、それぞれ教科書を選定しています。

委員 両校で同じ教科書を使っていることはあるのですか。全く相

談しないで一つも同じ教科書がないというのも不思議な気がします。

稲毛高等学校長 文部科学省の検定教科書を使用しているのですが、その数が少ないと両校で使用する教科書が重なることもあると思います。お互いに何を使っているかを意識しておらず、比べようという発想そのものがありませんでした。市立高等学校2校は、それぞれ性格がはっきりしており、千葉高等学校は理系、稲毛高等学校は文系というイメージがあると思うので、基本的に教科書は異なると思います。本校では、文系については相当程度に難しい教科書を使用するという意識を持っている一方、理数系の科目が嫌いであるという生徒の思いがあるようですので、これを打破していきたいと思っています。したがって、理数系については、より興味関心を惹くような教科書を使っています。

委員 よく理解できました。私は、特に2校が相談しなければならないということを言っているわけではありません。教科書を選んだ特徴として、資料には「教えやすい」や「理解しやすい」などの表現しかなく、「本校ではこのような特徴があるからこの教科書を選んだ」ということを、差しさわりのない程度で記載していただけると我々もわかりやすいです。

委員 さまざまな事情があり、高等学校が大変だということもよくわかりますが、千葉市の2つの高等学校の生徒に、どのような教育をするかということは真剣に考えてほしいと思います。千葉市の高等学校というある種の目標があって、そうであれば理系でも文系でもある程度似たところがあるかもしれないと、一般の人はそう考えてしまいます。

委員 委員長や 委員から表現に気をつけるなどご指摘がありましたので、両校とも教科用図書選定理由書をそれぞれ学校に持ち帰り、お互いの教科書選定理由を見比べてみてほしいです。たとえば社会科で言うと、政治経済で同じ会社の教科書を選んでいきます。また、欄外の表記が若干異なっているところもありますので、そのようなところを両校で見比べて、お互い研究をして、この次はもう少し表現を考えてほしいという感想を持ちました。

委員 教科書を選ぶということは子どもたちの未来をつくっていくということと位置づけられていると思います。今、社会の変化が激しい中で、より早い時期に自分の将来像を考え、それをかなえるために高等学校で学んでいくという考え方がより必要になっ

てきていると思います。昔だったら大学に入るという目標や、大企業に入るという目標がかなえられればいいと思っていたのが、だんだんそうではなくなってきた中で、自分の内面を深く掘り下げ、自分の強みや弱みを分析して、将来こちらの方面に行きたいからこの単位を履修するなど、普通の学校に比べ、2校の千葉市立高校を目指す生徒は「この高校に行きたいからここを目指す」という生徒が多いと思います。その中で、どちらの高校もキャリアカウンセリングなどをどのように行っているのかを教えてください。

千葉高等学校長 本校は平成19年度から単位制になり、いろいろな教科やコースの選択ができました。今年度から総合的な学習の時間を、各学年で1時間ずつ設定しており、日数、内容について年間計画を作って履修しています。2学年から教科選択があり、2学年に上がるときにどのような選択をするか、3学年に上がるときにそれがどう繋がっていくか、進学の話やその後の大学に入った後、将来就く仕事の内容なども踏まえて考えています。

稲毛高等学校長 キャリア教育についてですが、進路指導部と各学年が連携をして、総合的な時間ということで全学年で実施しており、1学年では職場体験を行っています。また、全員が履修するわけではありませんが、選択科目で生活産業基礎という現実の社会の流れ等について勉強をする科目があります。受験だけに偏らないで、その先を見越して受験を考えるよう指導しています。

(2) 千葉高等学校の単位制について委員より質問があった。これに関連し、次のとおり質疑応答等があった。

委員 千葉高等学校の単位制について、3点質問します。1点目として、入試の結果はいかがでしたか。単位制になって反応はいかがですか。2点目として、入学生に対して教育課程等のオリエンテーションは行ったのでしょうか。また、その反応はいかがでしたか。3点目として、理数系、文系等、1学年の段階ではっきりした方向付けをするのでしょうか。また、それに対して生徒の反応はいかがのでしょうか。

千葉高等学校長 1点目の質問について、入学試験の倍率ですが、平成18年度と平成19年度とを比較して、特色化選抜では、普通科は2.67倍から3.07倍に、理数科は3.05倍から3.86倍に、学力検査では、普通科は1.34倍から1.74倍に、理数科は1.65倍から1.89倍にそれぞれ増加しました。単位制の導

入や新校舎の建築により、中学生の関心が強まったと思われます。2点目の質問について、受験前の段階では、お盆明けに市民会館で、中学生を対象とした学校説明会を行います。これには1,000人余りの申込みがあります。また、9月に本校の教員が市内の中学校をすべて回って、3学年の学年主任、進路指導の教員に説明を行います。そして、入学候補者への説明会を翌年3月に行い、そこで教育課程について細かく説明します。入学後は4月早々に、今後の科目の選択についての総合説明に入ります。教育課程についての反応ですが、単位制の導入はまだ1年目で、しかも単位制の1学年で履修するのはほとんど必修科目で、芸術のみが選択科目であるため、科目の選択についての反応は何とも言えません。しかし、本校の1学年の特色として、英語と数学で少人数授業を行っており、これは生徒の受け入れがよいです。教員も教えやすいという面がありますし、生徒からすると、教員からの目が今までよりも多くいくようになり、指名されたりする場面が多くなり、負担はやや大きくなりますが、そのような意味で学習習慣に繋がり、いい生徒が育つのではないかと思います。3点目の質問について、先ほど申しましたとおり、1学年では全生徒がほとんど同じことを勉強し、この段階では理系と文系は分けていません。2学年に入ると数学、英語、国語の選択で、自分の進路を考えて何を選択するか考えています。3学年になったらそれぞれの進路に向かう中で、受験科目などを選択していくことになります。

委員 科目の選択制の目標はうまく回転していますか。

千葉高等学校長 まだ単位制を導入された生徒が1学年ですので何とも言えませんが、2学年でどのような科目を選択するかで、理系、文系という考えを生徒本人たちが持つことになります。修得が要求されない部分もありますが、生徒が手を抜くような感じではなくて、すべて履修させたいというのが学校の方針です。

委員 専門科目を取り入れるということで教員の人数は増えたのでしょうか。

千葉高等学校長 数学や英語で少人数授業を実施しているため、教員の数が多く必要となっています。当校では、普通の単位制を導入している他の県立高校よりも多く教員が配置されています。

委員 優秀企業や海外の支援というのも考えた計画になっていると思いますが、出前授業はまだ始まっていないのですか。

千葉高等学校長 今年の秋から大学の出前授業が始まりますが、今まで行っていた大学の先生方の授業なども継続して行っていきます。

委員 校舎そのものに簡単な実習室など、選択科目によって必要な整備はされているのでしょうか。

千葉高等学校長 単位制になって少人数授業が多くなっていくので、ゼミ室や小講義室などという形で多くの教室がつけられる予定です。

委員 たとえば、自動車整備を学ぶために車一台を倉庫に入れておいて、生徒が自由に解体するなどの実習ができるような整備ができてい学校も海外にはあるのですが、そのような取組みはないのでしょうか。

千葉高等学校長 現在、2年生と3年生がまとまって学ぶ時間帯があって、エネルギー実践教育を行っております。

委員 千葉高等学校も稲毛高等学校も、子どもたちのために、いろいろな計画を教員がいろいろと議論しあった中で考えていることと、特別支援学校もこのような視点が必要だということで教科書のリストをあげていることがよくわかりました。もう一つお聞きしたいのですが、出前授業について、3校ともに卒業生の協力を得るといことはあるのでしょうか。

千葉高等学校長 理数科がある学校では、卒業生が研究者になったり、会社の技術部門で働いていたりしており、そのような人を講師として招いて会社の紹介をしたりしている学校もありますが、本校ではそこまでは卒業生との連携はない状況です。さまざまな機会において、このような卒業生がいるということを生徒に紹介をしていることはあります。

稲毛高等学校長 最初の卒業生が、現在44ないし45歳ということで、なかなか来校する余裕がないということと、また、こちらも卒業生が捉え切れていないというのが現状であり、卒業生の出前授業は行っておりませんが、今後実施について検討していきたいと思います。また、質問の趣旨とは若干異なると思いますが、大学の模擬授業ということで、毎年大学の先生方15ないし16名に来ていただいて、それぞれ授業を2時間ほど行っています。大学の先生がほとんどなのですが、先ほどのキャリア教育との関連で言えば、中には専門学校の理容関係、美容関係、犬のトリミング関係の先生にも授業をしていただいています。

委員 稲毛高等学校でそのようなことをしているのですか。

稲毛高等学校長 今年の卒業生の就職は1人で、あとは進学なのですが、専

門学校に進む生徒もいまして、美容関係の専門学校に進んだ生徒もいます。また、千葉大学や私立の大学も非常に協力的です。

委員 幅広い選択ができるというのは非常にいいと思います。

委員 大学の先生は指導が上手でしょうか。

稲毛高等学校長 ドイツ語の授業を少し見学しましたが、ドイツ語そのものに加えてドイツの事情などを教えていて、私自身は面白く聴くことができました。

千葉高等学校長 昨年度までSSHの関係でお願いしている方たちなので、講義だけでなく実験も行い、非常に生徒に興味を持たせることができたのではないかと思います。

委員 特別支援の学校にも卒業生の方がいらして、「学校で学んだこのようなことが社会で役立っている」など、何かキャリアのことについて話してくれることはあるのでしょうか。

委員 教科書を見ると、卒業後の就職もかなり考えていらっしゃるのではないかと思います。

指導課長 今は把握しておりませんので、特別支援学校に問い合わせ確認しておきたいと思います。

委員 教科書でも「こういうことができる」という仕事ができる」と、かなり具体的に書いてあったのでそのように考えました。

(3) 次回第8回定例会は8月22日(水)午後2時00分より開催することと決定した。

8 閉会

竹蓋委員長より閉会を宣言